

第2章

発達段階に応じたキャリア教育の充実

第2章 発達段階に応じたキャリア教育の充実

① キャリア教育の推進体制づくり

■ 背景(課題) 【体系的・系統的なキャリア教育を推進する体制づくり】

近年、自営業や第一次産業従事者の減少に加えて、居住地と労働地域との乖離が進行したことにより、地域では職業人と身近に接する機会が減少し、家庭では、親の働く姿が子どもによく見えていないなど、子どもたちが大人の働いている姿を目にする機会が少なくなっている。こうした状況を背景として、子どもたちの中には、学校での学習と自分の将来との関係に意義が見出せず、学ぶ意欲をなくしている状況も見られる。

子どもたちが働くことの喜びや価値を実感し、自分の生き方や生活を職業や社会に関連付けて捉え、将来への希望や自信、働くことへの意欲を持つことができるようにすることが必要である。

そのためには、子どもたちの発達段階に応じた、体系的・系統的なキャリア教育を推進する体制づくりが必要である。

■ 関連する施策の実施状況 【キャリア教育ノート等の資料の活用促進等】

体系的・系統的なキャリア教育を推進するためには、他の校種でどのようにキャリア教育が実施されているかについて理解を深めることが必要である。そこで、平成24年度は、「愛知県キャリア教育会議」において、小学校、高等学校、特別支援学校で先進的なキャリア教育の取組を実施している学校の事例発表を通して、各学校種の取組について理解を深めた。また、平成23年度に作成した「キャリア教育ノート」の活用状況の把握及び今後の活用に向けた方策、キャリア教育に協力していただける企業を登録する「あいち夢はぐくみサポーター」の拡充と活用について協議した。

あわせて、「キャリア教育ノート」及び平成22年度に作成した職場体験学習の事前学習用DVD「キャリア教育生き方メッセージ集」、平成23年度に作成した教員研修用の「キャリア教育推進DVD」、「あいち夢はぐくみサポーター」制度の周知・活用を促した。



【キャリア教育ノート】

■ 取組の成果・課題及び今後の方向性 【各学校段階の課題への対応】

「キャリア教育生き方メッセージ集」の中学校での活用率は71.4%であり、平成23年度より11.2%増加した。また、「キャリア教育推進DVD」を活用している、もしくは今後活用するとした小学校は83.2%であった。「キャリア教育ノート」については、小学校で78.2%、中学校で76.7%の学校が活用している又は活用する予定であるとしている(図表12)。こうしたことから、これらの資料については、学校である程度の活用が図られているといえるが、キャリア教育への取り組み方は学校によってさまざまである。キャリア教育に関する校内研修を実施している学校が小学校34.4%、中学校61.4%であったこと、キャリア教育に関する年間指導計

画を策定している学校が中学校では 81.3%であったものの、小学校は 48.6%にとどまっていることから(図表 13)、キャリア教育がより系統的に推進されるよう、特に小学校において、これまでに作成した資料を活用した校内研修や年間指導計画の策定を学校に働きかけていく必要がある。

また、全日制県立高等学校で「キャリア教育ノート」を活用している学校は 148 校中 33 校であり、全体の 22.3%であった(図表 14)。

高等学校で、多くの学校で活用が進まなかった理由として、内容の周知が十分でなかったこと、各学校が独自に作成している進路指導資料が継続的に使用されていることなどが挙げられる。継続的なキャリア教育を実施するためには、小学校から高等学校までを見通した系統的なキャリア教育が必要であることから、平成 25 年度は、「キャリア教育ノート」の趣旨に即した活用について周知するとともに、各学校で活用する上での課題や改善策を協議し、小学校から高等学校までのキャリア教育において、「キャリア教育ノート」が積極的に活用されるよう働きかけていきたい。

また、「あいち夢はぐくみサポーター」制度への登録状況は平成 24 年度末で 349 件であった。登録事業所の業種はさまざまであり、活動内容も多岐にわたることから、特に専門学科と比べて産業界との結びつきが弱い普通科高校にとってサポーターの活用は極めて有効であると考えている(図表 15)。一方で、特別支援学校を対象とした事業所はまだ少なく、職種も製造業に偏りがちであることから、今後、引き続きサポーターの登録拡充に努めるとともに、特別支援学校を受け入れる企業について、製造業以外の職種へも働きかけ、各学校がサポーター企業を積極的に活用し、充実したキャリア教育に取り組めるよう事業を展開していきたい。

【図表 12: キャリア教育に関する資料の活用率(小・中学校)】

資料名	対象	活用している (活用する予定)	活用する 予定はない	その他 (検討中等)
キャリア教育推進DVD	(小学校)	83.2%	16.7%	0.1%
キャリア教育生き方メッセージ集	(中学校)	71.4%	27.6%	1.0%
キャリア教育ノート	(小学校)	78.2%	21.1%	0.7%
	(中学校)	76.7%	22.0%	1.3%

【図表 13: キャリア教育の実施体制(小・中学校)】

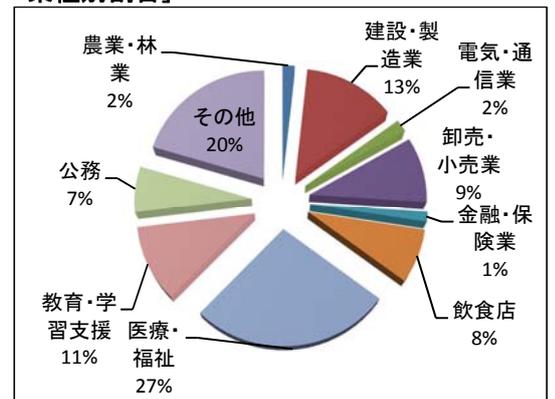
区 分	小	中
キャリア教育に関する校内研修を実施している学校	34.4%	61.4%
キャリア教育に関する年間指導計画を策定している学校	48.6%	81.3%

【図表 14: キャリア教育ノートの活用率(高等学校)】

学校数	割合	内 訳		
33校	22.3%	普通科(単独)	17校	51.5%
		複数学科(併設)	7校	21.2%
		専門学科(単独)	7校	21.2%
		総合学科	2校	6.1%

※県立高等学校148校で調査

【図表 15: あいち夢はぐくみサポーター業種別割合】



第2章 発達段階に応じたキャリア教育の充実

② 職場体験活動・インターンシップ等の推進

■ 背景(課題) 【子どもたちの発達段階に応じた勤労観・職業観の育成】

子どもたちが社会的・職業的に自立し、社会の一員としての自分の役割を果たしていくためには、知識や技能と合わせて、相手の考えや立場、周囲の状況を理解しながら人間関係を作り上げていく力や、自らを高めながら課題を発見し解決していく力など、さまざまな能力を必要とする。

こうした能力は子どもたちの成長過程と深く関わりながら段階を追って発達していくものであるため、小・中学校、高等学校等の学校段階ごとの取組を考え、それらを系統立ててつながりのあるものとしていくことが大切である。

そのため、愛知県教育委員会では、学校段階ごとにさまざまなキャリア教育に関する事業を実施し、子どもたちの社会的・職業的自立に向けた諸能力と勤労観・職業観を育てているところである。

■ 関連する施策の実施状況 【各学校段階での職場体験活動等の実施】

小学校では、高学年を対象にモノづくりを体験したり、モノづくりの達人から仕事に対する思いを聞くことにより、働くことや学ぶことの基盤をつくる「夢をはぐくむあいち・モノづくり体験事業」を平成23年度より実施している。

中学校では、平成18年度より、「あいち・出会いと体験の道場」を実施し、全中学校での職場体験活動を推進している。

高等学校では、平成23年度より「キャリア教育推進事業」によりすべての全日制高等学校でのインターンシップやジョブシャドウイング等の取組を実施している。また、工業科を除く職業科では、産業界や大学等で活躍するプロフェッショナルから各教科の専門分野について指導を受ける「キャリアリンク講座」を、工業科では、地域の産業界と連携して、産業界のニーズを踏まえた実践的な技能習得を目指す「地域ものづくりスキルアップ講座」を実施している。

特別支援学校では、平成23年度から中学部を対象とした就労体験活動である「チャレンジ体験推進事業」と高等部を対象とした現場実習である「就労支援推進事業」を実施している。また、平成24年度より、小学部を対象とした職場見学である「ふれあい発見推進事業」を実施している。



【普通科高校生のジョブシャドウイングの取組】

■ 取組の成果・課題及び今後の方向性 【より一層の職場体験活動の充実】

「あいち・出会いと体験の道場」では、すべての公立中学校で職場体験を実施し、生徒や事業所へのアンケートから、有意義な活動ができたと考えられる(図表16)。一方で、受け入れ先の事業所より、「この活動の重要性をもっと生徒にしっかり伝えてから活動させたい」との意見もあったことから、これまでに作成した「キャリア教育ノート」等を活用した事前・事後指導の充実について学校に働きかけていきたい。

また、高等学校では、平成23年度からすべての全日制県立高等学校146校でインターンシップ等の取組が実施され、参加生徒数も平成23年度の9,483人から平成24年度は9,982人と増加する(図表17)など、各学校で一層キャリア教育が進んでいる。しかし、在学中にインターンシップ等に取り組んだ生徒の割合は20.2%と、年々増加しているものの、まだまだ十分ではない(図表18)。特に普通科高校においては、受け入れ先の制約などもあり、企業との結びつきが強い専門学科の学校と比べて、参加人数が少なかったり、業種に偏りがあつたりするなどの課題もある。そのため、「あいち夢はぐくみサポーター」や「キャリア教育ノート」を活用して、普通科高校でのキャリア教育を一層推進していく。

特別支援学校では、働くことが具体的にイメージできた、実際に卒業後の就職につながったとの成果があるものの、平成24年度に県立特別支援学校高等部を卒業した生徒の一般企業への就職率は39.6%であり、全国平均と比べると高い数値ではあるが、ここ5年間、40%を下回る状況が続いている(図表19)。今後も作業学習や産業現場等における実習に積極的に取り組むとともに、サービス業等の製造業以外の職種での活動も充実させ、子どもたちの職業選択の可能性を拡大していく。

【図表16: あいち・出会いと体験の道場アンケート結果】

生徒アンケートの結果				
今回の職場体験活動で、働いている人の苦労や働くことの大切さなどが学べたと思いますか。	そう思う	おおむねそう思う	あまり思わない	思わない
	69.5%	26.0%	3.8%	0.7%
事業所アンケートの結果				
今回の職場体験活動は、子どもが働く意欲、働くことの大切さを学ぶのに有効であったと思われますか。	そう思う	おおむねそう思う	あまり思わない	思わない
	52.4%	40.6%	6.0%	1.0%

【図表17: 過去5年間のインターンシップ等の取組状況(高等学校)】

年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
実施校数	85	85	143	146	146
実施率	71.8%	73.2%	96.0%	100.0%	100.0%
体験生徒数	5,796	5,651	8,183	9,483	9,982
事業所数	1,359	1,437	1,749	2,050	2,165

【図表18: 在学中にインターンシップ等に参加した生徒の割合(高等学校)】

年度	20	21	22	23	24
在学中に1度でも参加した人数	4,368人	4,630人	5,417人	6,197人	7,792人
卒業人数	35,713人	35,864人	36,401人	37,003人	38,645人
在学中に参加した人数の割合	12.2%	12.9%	14.9%	16.7%	20.2%
普通科の割合	13.7%	12.7%	28.2%	36.6%	43.4%

【図表19: 県立特別支援学校高等部生徒の就職率】

年度	21	22	23	24
県立学校	38.4%	36.7%	37.7%	39.6%
全国	23.7%	24.3%	25.0%	—

※県立は「特別支援学校の幼児児童生徒の実態調査」による

※全国は「学校基本調査」による(平成24年度は集計中)

第2章 発達段階に応じたキャリア教育の充実

③ 産業教育の充実

■ 背景(課題) 【経済のグローバル化に対応した人材の育成】

本県は、製造品出荷額等が昭和52年以来平成24年度まで35年連続して全国1位を誇る産業立県であり、高等学校における産業教育等を通して、これまで幅広い分野で産業・社会を担う人材を輩出してきた。

しかし、科学技術の進歩に伴う技術の高度化や、経済のグローバル化が急速に進展している現在では、社会のさまざまな情勢の変化に対応できる柔軟性と創造性に富んだ人材の育成が求められている。

このような中、平成21年3月に公示された高等学校の新学習指導要領において、専門教育には、将来のスペシャリストの育成に必要な専門性の基礎・基本を一層重視すること、将来の地域産業を担う人材を育成すること、人間性豊かな職業人を育成することなどが改善の視点として掲げられている。

本県では、これまでも、子どもたちのものづくりへの関心・意欲を高めるため、地域の優れた熟練技能者を学校に派遣したり、専門高校生が地域の企業において長期間にわたり実習を行ったりするなどの取組を進めてきた。また、本県の工業教育の中核となる新しい高等学校の設置に向け、準備を進めているところである。

■ 関連する施策の実施状況

【地域産業を担う人材の育成、総合工科高等学校の建設】

「キャリア教育推進事業(地域ものづくりスキルアップ講座)」では、工業高校の教育課程に地域企業と連携した実習を取り入れることで、産業界のニーズを踏まえた実践的な技能を身に付けた、今後の地域産業を担う人材の育成を図った。

また、「あいちさんフェスタ2012」を開催し、専門学科や特別支援学校等で産業教育について学ぶ高校生等による研究発表や作品展示、生産物等の即売、小・中学生を対象とした体験コーナー等を通して、産業教育について学ぶ生徒の自信と誇りを醸成し、将来の産業を担う「スペシャリスト」の育成と産業教育の一層の振興、発展を図った。

なお、平成27年4月に開校を予定している本県の工業教育の中核となる新しい高等学校については、校名を「愛知県立愛知総合工科高等学校」と決定し、設計及び建設予定地(元県立東山工業高等学校)の校舎の取壊工事・造成工事を行うとともに、企業が求める人材の把握や現場実習の受入れの協力先の拡大を図るため、県内の航空宇宙産業関連企業や工作機械メーカーを中心に企業訪問を実施した。



【地域ものづくりスキルアップ講座】



【あいちさんフェスタ2012】

■ 取組の成果・課題及び今後の方向性

【基本的な知識・技術等の習得、地域のニーズを踏まえた人材の育成】

「キャリア教育推進事業（地域ものづくりスキルアップ講座）」では、参加した生徒が、青年技能者の技能レベルの日本一を競う「技能五輪全国大会」に出場するなど、「匠の技」の継承につながる成果をあげている。

一方で、協力企業からは、参加した生徒について、研修で必要とされる基本的な知識・技術及び技能が不足している、または、やや不足しているとの指摘も 20.6%あった(図表 20)ことから、将来のスペシャリストの育成に必要な専門性の基礎・基本を一層重視し、専門分野に関する基礎的・基本的な知識・技術及び技能の定着を図っていく。

また、平成 25 年度には、専門学科等で学ぶ全国の高校生等が集い、研究発表や作品展示、各種コンクール等を行う「第 23 回全国産業教育フェア愛知大会」を開催する。平成 24 年度に開催した「あいちさんフェスタ 2012」の成果を踏まえ、日頃の学習成果と産業教育の魅力を発信する大会とし、全国有数の産業立県である本県の産業教育の取組を産業界、教育界及び一般に広く広報し、学校・地域・産業界の一層の連携を図っていく。

平成 27 年 4 月に開校する愛知総合工科高等学校については、平成 25 年度より建設工事に入る。本県の工業教育の中核としてふさわしい学校となるよう、企業や大学関係の外部委員を含む専門員会を設置し、教育課程の内容や現場実習の方法等について具体的に検討していく。

今後も、こうした取組により、地域や産業界のニーズを踏まえた、高等学校における産業教育の一層の充実を図るとともに、地域の企業や経済団体、大学や専門学校等との連携を強化し、時代の変化に適切に対応しながら本県の産業を支えていくことのできる人材の育成を図っていく。

【図表 20:地域ものづくりスキルアップ講座企業アンケートの結果】

研修に必要な基本的な知識・技術及び技能をもっているか。	
十分もっていた	8.6%
まあまあもっていた	63.8%
やや不足していた	17.2%
まったく不足していた	3.4%
その他	7.0%

④ 英語教育の充実

■ 背景(課題) 【国際社会のグローバル化に対応した英語力の強化】

現代の国際社会はグローバル化が加速度的に進展し、人、物、金融が国を超えて一層流動する時代を迎えている。そのため、さまざまな分野で英語力が求められる時代となっており、英語圏以外の国民の間でも、英語によってコミュニケーションを図ることが基本となるなど、英語の重要性がますます高まっている。

一方、近年、海外へ留学する高校生・大学生が減少するなど、日本の若者のいわゆる「内向き志向」が指摘されている。世界的な競争と共生が進む現代社会で、豊かな語学力を身に付けて異文化体験を積み、国際社会で活躍する人材を育成することは極めて重要である。国際共通語である英語は、グローバル社会を生きる我が国の子どもたちの可能性を大きく広げる大切なツールであるとともに、日本の国際競争力を高めていく上での重要な要素となっている。

こうした中、新しく改訂された学習指導要領では、小学校5、6年で新たに外国語活動が導入されるとともに、中学校では英語の授業時間数が約3割増となり、高等学校では、「英語の授業は英語で行うことを基本とする」などの充実が図られている。

本県においても、急速かつ大きく変化する国際情勢に対応するために、地域全体の英語力を向上させ、世界を舞台に活躍できる人材を育成する必要がある。

そのため、本県ではこれまでも、外国人語学講師を全ての県立高等学校及び希望する市町村に派遣し、生徒の英語によるコミュニケーション能力の育成に努めるとともに、各種教員研修により、教員の指導力の向上を図ってきたところである。

■ 関連する施策の実施状況 【英語力を強化するための事業の実施】

上記の背景を踏まえ、平成24年度も、引き続き外国人語学講師の派遣を行った。

また、教員研修として、県立高等学校においては、英語科教員が新学習指導要領の趣旨を踏まえた指導方法を習得することを目的に平成21年度から実施している「英語科教員地区別研修」を平成24年度も実施し、県内を24地区に分けて、各地区で、英語によるコミュニケーション活動を取り入れた指導改善に取り組んだ。

こうした継続的な取組とあわせて、平成24年度は、国の事業である「英語力を強化する指導改善の取組」を、常滑高校と刈谷北高校を拠点校として実施し、オールイングリッシュによる先進的な授業を行っている他県の取組を参考に、コミュニケーション活動を中心とした授業づくりについての研究を行った。また、地元の中学校との連携を積極的に進め、相互の授業参観や地元の中学生を交えたイングリッシュキャンプを実施した。あわせて、各県立高等学校の英語科教員を対象に、外部講師を招いて、生徒の英語学習の到達目標の設定や達成状況の把握等に用いる「CAN-DOリスト」の作成や活用に関するワークショップを開催した。

さらに、英語教育における高大連携の推進と円滑な実施を図るため、国際教養科や国際理解コース等の英語に関する学科やコースをもつ県立高校と外国語学部

をもつ県内の大学との間で、高大連携連絡会議を実施した。

■ 取組の成果・課題及び今後の方向性

【地域全体の英語力の向上、あいちグローバル人材育成事業の立ち上げ】

外国人語学講師を活用することにより、各学校では、児童生徒が外国語の音声に慣れ親しみ、言語や文化への理解を深めるなど、外国語を学ぶことへの児童生徒の興味・関心の喚起につながっているため、今後も県立学校については、全校への派遣を継続する。



一方で、これまで、市町村の取組を補完・支援するた **【外国人語学講師による授業】** めに2名の外国人語学講師を県から市町村に派遣してきたところであるが、県内すべての市町村において、独自の語学講師が採用されるようになったことから、県として、外国人語学講師の活用を普及するという役割を達成したと判断し、市町村への外国人語学講師の派遣は平成24年度をもって終了することとした。

平成24年度に新しく実施した「英語力を強化する指導改善の取組」では、生徒の英語によるコミュニケーションの機会を拡充し、英語学習に対するモチベーションを高めるなど成果を取めることができた。

一方、研究実践は、2校という限定的な範囲にとどまっていることから、他校への普及・還元が課題となっている。

地域全体の英語力の向上を図るためには、英語力を強化する拠点校を拡大し、拠点校を中心に県内全域で、生徒の英語学習に対するモチベーションを向上させる取組を進め、英語が使える若者の育成を図るとともに、異文化理解の向上などを通じて世界で活躍できるグローバルな人材の育成を図る必要がある。

そこで、平成25年度から新たに「あいちグローバル人材育成事業」（図表21）を立ち上げ、最も英語を学ぶ世代である高校生の英語力の積極的な強化及び、拠点校を中心に小・中学校も含めた地域全体の英語力の向上を図っていく。

また、小学校においては、外国語活動に携わる教員を対象とした研修を実施するとともに、中学校及び高等学校の教員を友好提携先であるオーストラリア・ビクトリア州立大学の英語研修に派遣し、教員の指導力の向上を図る。

本県では、こうした取組も盛り込んだ「あいち国際戦略プラン」を平成25年3月に策定したところであり、今後とも、学校における英語教育の充実を図り、県を挙げて、国際的に活躍できる人材の育成に取り組んでいく。

【図表21: あいちグローバル人材育成事業】

あいちスーパーイングリッシュ ハブスクール事業	県内12地区に先進的英語教育の拠点となる高校を1校ずつ指定して、英語をコミュニケーションの道具として高いレベルで使いこなす人材を育成する。その成果を地区内の高等学校及び小・中学校に普及・還元することで、本県全体の英語力の向上を目指す。
イングリッシュキャンプ in あいち	様々な国の人たちとのオールイングリッシュによる共同生活を送ることで、英語に対する自信と興味・関心を高めるとともに、異文化体験を通して、相互の大切さを学ぶ。また、英語に興味を持つ仲間と切磋琢磨することで、高い目標に向かって努力する意欲を高める。
高校生海外チャレンジ促進事業	生徒が自ら企画提案した「海外でチャレンジしたいこと」を実現するための費用を助成する。

■ 施策の実施状況

(1) キャリア教育の推進		
■ キャリア教育の推進体制づくり		
施策の展開	主な内容	主な実績
キャリア教育会議の開催	有識者や経済団体、保護者の代表を交えて本県が進めるべきキャリア教育の在り方を検討	委員:14人 開催回数:年1回 ※小中学校、高等学校、特別支援学校ごとに部会を設置
キャリア教育ノートの活用促進	平成23年度に作成したキャリア教育ノートを活用した、各学校でのキャリア教育の推進を小・中・高等学校及び市町村教育委員会に依頼	キャリア教育ノートの活用状況: 小 78.2%、中 76.7%(活用している又は活用予定の学校) 高 22.3%(活用している学校)
「あいち夢はぐくみサポーター」の活用	児童生徒のキャリア教育を支援する県内の事業所や団体を「あいち夢はぐくみサポーター」として認証・登録	登録件数:349件(23件)
キャリア教育参画プランの作成	企業がキャリア教育に参画する際の手引きとなる「産業界のキャリア教育参画プラン(仮称)」の作成	平成27年度までに作成予定
男女共同参画の推進	男女共同参画に対する理解を促進するための作品募集や講演会等の普及啓発活動の実施	〈はがき1枚からの男女共同参画〉 応募数:621件
■ 職場体験活動・インターンシップ等の推進		
「夢をはぐくむあいち・モノづくり体験」事業	モノづくりを直接体験することや達人の思いにふれることで、子どもたちが働くことや学ぶことの意義を考えるきっかけとする事業の実施	参加校:53校(53校) [名古屋市を除く市町村各1校]
「あいち・出会いと体験の道場」推進事業	学校と地域が連携して中学校2年生を中心に5日間程度の職場体験等を実施	参加校:304校(304校) [名古屋市を除く全公立中学校] 参加者数:51,954人(50,842人)

※主な実績欄の()内の数値は前年度実績である

施策の展開	主 な 内 容	主 な 実 績
県立高校におけるインターンシップ等の推進	すべての全日制高校でのインターンシップ等の実施及び専門高校等での、プロフェッショナルの指導による講座の実施	〈インターンシップ等〉 実施校:全日制 146 校(146 校) 参加生徒数:9,982 人(9,483 人) 〈キャリアリンク講座〉 実施校:42 校 時間数:239 時間 〈地域ものづくりスキルアップ講座〉 実施校:17 校
あいち理数教育推進事業	高校生が大学の学びに触れることを通して、自らの視野を広げ、生涯を見通したキャリアプランニングについて考える機会を提供	メニュー: あいち科学技術教育推進協議会 知の探究講座 あいち科学の甲子園
高校と大学との部会別連携協議会の開催	高校と大学の円滑な連携を図るため、農業・工業・商業・普通科(外国語)部会別に意見交換を実施	開催:各部会 1 回
「大学と県教育委員会との連携推進会議」の開催	県内すべての 4 年制大学や私立高校関係者、県教育委員会が相互の連携に向けた意見交換を行う会議の開催	開催:年 2 回
「あいちの学校連携ネット」の運用	大学が行う高校生向けの講座情報など、県内すべての 49 大学と高等学校・特別支援学校・市町村教育委員会とをつなげる情報の掲載	開設:平成 24 年 3 月 アクセス数:14,041 件[累計]
あいちの大学「学び」フォーラムの開催	大学教員の専門的な講義を通して、生徒が進路選択について考えるきっかけづくりとする講座を開催	講座数:21 講座 参加生徒等数:598 人
公共職業安定所との連携による職業教育の充実	愛知労働局との連携による生徒や教職員への意識啓発及び教員研修会の開催	高等学校就職担当者研修会: 年 1 回

施策の展開	主 な 内 容	主 な 実 績
特別支援学校におけるキャリア教育の推進	小学部での学校近隣の商店や工場で働く人を見学する「ふれあい発見推進事業」及び中学部での地域の職場の見学や簡単な作業などを体験する「チャレンジ体験推進事業」、高等部での長期間の現場実習や県立学校での就業体験を行う「就労支援推進事業」の実施	〈ふれあい発見推進事業〉 実施校数:22校 実施人数:252人 〈チャレンジ体験推進事業〉 実施校数:22校(21校) 実施人数 242人(200人) 〈就労支援推進事業[現場実習]〉 実施校:23校(24校) 実施人数 277人(228人) 〈就労支援推進事業[就業体験]〉 実施校:18校(19校) 実施人数 240人(246人)
県立の大学におけるキャリア教育の支援	学生が早い段階から将来への目的意識を明確に持ち、自己の将来設計を考えられるよう、就職や自立に向けたキャリア教育に積極的に取り組む	サテライトキャンパスへのキャリア支援室分室の設置 常勤のキャリアカウンセラーによる就職相談 各種セミナーの実施 就職支援システムの導入 等
大学生 1 日職場体験支援モデル事業の実施	学生に中小企業へ目を向けてもらうきっかけづくりとして、中小企業における 1 日職場体験をモデル的に実施	実施企業:12 企業 参加学生:55 名
■ 多様なニーズに対応した就業支援の充実		
若年者等の就職の促進	学校や市町村等との連携による若年者等への就職支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ あいち若者職業支援センター おおむね 45 歳未満の若者を対象に就職相談、就職支援セミナー等を実施 ・ 若年者就職相談窓口 県内 14 市町と連携して就職相談窓口を設置 ・ 離転職者訓練 受講者:574 人(649 人) ・ 雇用セーフティネット対策訓練 受講者:5,703 人(5,739 人) ※平成 23 年度からの繰越者 115 人を除く

(2) 産業教育の充実		
■ 高等学校における産業教育の充実		
施策の展開	主な内容	主な実績
愛知総合工科高等学校の設置	本県の工業教育の中核となる高等学校の設置準備(取壊工事、造成工事及び企業が求める人材を把握するための企業訪問等)	開校予定:平成27年4月 建設予定地:名古屋市千種区[元 県立東山工業高等学校]
産業教育設備の整備	県立高等学校専門学科における産業教育のための実験実習用設備の整備	新規整備:20校(20校) 設備更新等:23校(33校)
職業教育技術認定制度	一定条件以上の資格等を取得した生徒への知事からの顕彰及び県独自の検定試験の合格者への合格証書の授与	知事顕彰者:8,807人(8,165人) 検定合格者:3,909人(4,116人)
「地域振興」「観光」などの教育課程の検討	産業構造の多様化に対応するための、県立高等学校での「地域振興」や「観光」をテーマとした教育課程を検討	—
■ 高等学校・高等技術専門校・企業の連携強化		
地域ものづくりスキルアップ講座	工業高校の教育課程に地域の企業との連携プログラムを組み込み、産業界のニーズを踏まえた実践的な技能取得を目指す	実施校数:17校(17校) 参加生徒数:187人(199人)
モノづくり人材育成	高等技術専門校における、県内の工業高校生を対象とした、企業の熟練指導者又は技能士による技能検定合格を目指した技能実習の実施	参加生徒数:6校27人(4校33人) うち2級合格者:13人(10人) 3級合格者:10人(17人)
■ 人材育成機能の強化		
高等技術専門校におけるモノづくり人材育成	高等技術専門校の訓練について、モノづくり関連分野を核とした訓練体系への移行を進める	名古屋高等技術専門校にモノづくり総合科を開設 受講者:6校701人(762人)
中小企業人材育成モデルの普及・活用	平成23年度に作成した中小企業人材育成モデルの普及啓発	関係機関への配布及びホームページへの掲載

■ 技術・技能を尊重する機運の醸成		
施策の展開	主な内容	主な実績
あいちさんフェスタ 2012 の開催	農業・工業・商業・水産・家庭・看護・福祉・総合学科や特別支援学校で産業教育について学ぶ高校生等による作品展示、生産物即売、高校生の「匠の技」披露、研究発表、アトラクション等の実施	参加校数：73 校（73 校） 〈金山会場〉 開催日：平成 24 年 10 月 27 日（土） 開催地：名古屋市（金山総合駅） 〈刈谷会場〉 開催日：平成 24 年 11 月 3 日（土） 開催地：刈谷市（刈谷市産業振興センター）
第 23 回全国産業教育フェア愛知大会の開催準備	平成 25 年に本県で開催される「第 23 回全国産業教育フェア愛知大会」の開催準備	準備委員会の設置
技能五輪全国大会・全国障害者技能競技大会の開催準備	平成 26 年に本県で開催される「技能五輪・アビリンピックあいち大会 2014」の開催準備	「技能五輪・アビリンピックあいち大会 2014 推進協議会」の設立

(3) 世界を舞台に活躍できる人づくり		
■ 外国語教育・国際理解教育の充実		
施策の展開	主な内容	主な実績
英語の授業改善	外国語指導助手 (ALT) 等の配置及び英語科教員の資質向上並びに英語の学習コンテンツ開発やインターネットを活用した国際交流学习の効果的手法の研究	外国語指導助手配置：40 人（40 人） 在県外国人語講師配置：15 人（15 人） 英語科教員地区別研修：24 地区 約 750 人（24 地区約 750 人） 英語力を強化する指導改善の取組：2 校
県立学校における国際交流活動の実施	県立高等学校、特別支援学校において、海外の姉妹・友好提携校との間で国際交流活動を実施	相互の学校訪問、夏季休業中の人的交流、インターネットを通じた交流、作品交流 等
高校生の留学促進事業	原則 1 年間外国の正規の後期中等教育機関に通う生徒を対象とした留学支援金の給付	給付対象：15 人
国際理解コースや国際コミュニケーションコース等での取組	海外の学校との交流活動や海外語学研修などの取組の実施及び英語科の国際教養科への学科改編の実施	国際教養科：3 校（1 校） 普通科国際理解コース：4 校（4 校） 国際コミュニケーションコース：2 校（2 校）

施策の展開	主 な 内 容	主 な 実 績
近隣アジア諸国の言語教育の推進	アジア諸国との交流の拡大を踏まえた、中国語や韓国・朝鮮語などを学習できる機会の拡大	〈講座開設学校数〉 中国語:12校(12校) 韓国・朝鮮語:5校(5校)
ふるさと遺産サポート事業	住民や子どもたちが郷土の自然や文化財を未来に守り伝える環境を整えるための、保存団体による伝統文化出張講座の開催	講座数:小4校(小4校)
県立学校アクティブチャレンジ事業(再掲)	県立学校全体の活性化を目指した、各学校の意欲的な教育活動を支援	魅力ある授業づくり部門: 高5校(5校) スポーツ・文化芸術部門: 高6校(6校) 地域貢献部門:高5校(8校) 特2校(2校)
ユネスコスクールの加盟促進	ESDの推進拠点であるユネスコスクールの加盟促進を図るための研修会の実施及びユネスコスクールが地域と協働して実施するESD活動への助成並びに加盟申請書の英訳支援	〈ユネスコスクール研修会〉 尾張:平成24年8月7日(火) 三河:平成24年8月9日(木) 加盟校:27校(3校)[累計] 加盟申請校:26校(11校)
英語教育に関する教員研修の充実	大学との連携による英語教育に関する教員研修の実施	小学校外国語活動講座:1日(1日) 中学校10年経験者研修:英語2日(2日) 高等学校10年経験者研修:英語2日(2日)
■ 表現力の育成		
ことばの学習活性化推進事業	児童生徒に言葉の魅力や楽しさを味わわせ、言葉に対する興味・関心を高めるために、外部人材を活用した地域全体で取り組む言語活動に関する事業を実施	委託:8市町 外部人材活用数:23名 取組例:絵本作家を講師とした講習会、俳句作り 等
■ 世界で活躍できる知性や技術・技能の育成		
あいち理数教育推進事業(再掲)	大学等と連携した高度な理数教育の実施及び成果の全校への普及 <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">あいち科学の甲子園のチーム競技で優勝した県立岡崎高等学校が県代表として全国大会で優勝</div>	〈あいち科学技術教育推進協議会〉 参加校:24校(23校) 〈知の探究講座〉 参加校:54校139人(44校135人) 〈あいち科学の甲子園〉 チーム競技参加:16校20チーム 個人競技参加:21名

施策の展開	主 な 内 容	主 な 実 績
愛知総合工科高等学校の設置 (再掲)	本県の工業教育の中核となる高等学校の設置準備(取壊工事・造成工事及び企業が求める人材を把握するための企業訪問)	開校予定:平成27年4月 建設予定地:名古屋市千種区[元 県立東山工業高等学校]

■ 効果指標の達成状況

◆キャリア教育の年間指導計画を作成している学校の割合(小・中学校)

⇒【目標】100%(27年度)

○小・中学校ともに目標を下回っている。

○今後、市町村教育委員会及び学校に平成22年度に作成した「キャリア教育生き方メッセージ集」や平成23年度に作成した「キャリア教育推進DVD」及び「キャリア教育ノート」の活用を呼びかける中で、平成27年度までの「年間指導計画」の策定・運用について働きかけていく。

■本県実施調査の結果

年 度	24年度	25年度	26年度	27年度
小学校	48.6%			
中学校	81.3%			

※ ○は、目標を達成している項目である。

◆インターンシップ等を実施する全日制県立高等学校の割合

⇒【目標】100%(27年度)

○平成23年度に引き続き目標を達成した。

○全校でインターンシップ等の取組が行われているものの、在学中にインターンシップ等に取り組んだ生徒の割合が20.2%(平成24年度)とまだ十分でないことや、特に普通科高校での取組が進んでいないことから、「あいち夢はぐくみサポーター」や「キャリア教育ノート」を活用して、キャリア教育の一層の充実を図っていく。

■本県実施調査の結果

年 度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
実施率	73.2%	96.0%	○ 100%	○ 100%			

※ ○は、目標を達成している項目である。

◆特別支援学校高等部卒業者の一般就労の就職率

⇒【目標】50%(27年度)

○平成23年度より2%の増となったが、目標達成には至っていない。

○今後も小学部を対象とした「ふれあい発見推進事業」や中学部を対象とした「チャレンジ体験推進事業」、高等部を対象とした「就労支援推進事業」により、作業学習や産業現場等における実習に積極的に取り組むとともに、サービス業等の製造業以外の職種での活動も充実させ、子どもたちの職業選択の可能性を拡大していく。

■特別支援学校の幼児児童生徒の実態調査の結果

年 度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
就労率	38.4%	36.7%	37.7%	39.6%			

※ ○は、目標を達成している項目である。

◆あいち夢はぐくみサポーターの登録数

⇒【目標】前年度に比べて増加する。(毎年度)

○平成23年度より登録を開始した「あいち夢はぐくみサポーター」については、幅広い業種から、多数の事業所の協力を得ることができた。

○今後も登録事業所の充実を図り、学校のキャリア教育が円滑に実施できる体制を整えていく。

■あいち夢はぐくみサポーターの登録事業所数

年 度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
登録数	—	23 事業所	○ 349 事業所			

※ ○は、目標を達成している項目である。

◆全国学力・学習状況調査で「勤労観・職業観」に関する項目に肯定的に答えた児童生徒数の割合（小・中学校）

⇒【目標】全ての項目で全国平均を上回る。（毎年度）

○小・中学校ともに目標を下回っている。

○子どもたちが将来の進路選択や職業に夢や希望を持てるように、家庭や地域との連携を大事にしながら、学校でのキャリア教育の一層の充実を図っていく。

■全国学力・学習状況調査(文部科学省)の結果

小 学 校		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
将来の夢や目標をもっていますか。	本 県	86.3%	—	86.2%			
	全 国	86.8%	—	86.7%			
家の手伝いをしていますか。	本 県	78.9%	—	79.9%			
	全 国	80.2%	—	80.7%			

中 学 校		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
将来の夢や目標をもっていますか。	本 県	70.0%	—	71.5%			
	全 国	71.7%	—	73.2%			
家の手伝いをしていますか。	本 県	62.4%	—	65.1%			
	全 国	64.8%	—	66.0%			

